



ボランティア

ボランティア【ポルトガル語で舵とり】 わ【輪、和】を意味します

2002年
1月19日発行
新春号(季刊)
Vol. 7

～ 新春号 世界に出会う2002年 ～

平成13年度の反省と平成14年度の抱負

<<< 2002年の活動の抱負 >>>

「W杯 そしてその後も」

私は、2002年も横国ボランティアに参加させていただこうと考えています。そして、ボランティアを行ってきた目的であるW杯(ワールドカップ)にも参加いたします。サッカーを経験し、多少でも関わっていきたく私にとって、どんな形にせよW杯に参加できるのは夢のような事です。しかし、それだけにW杯後の自分は何を目的にボランティアを活動すればよいのか見つけられないでいました。そんな時、ボランティア関連の本を読み、答えが見つかった気持ちになりました。ボランティア参加の動機は、ひとつの事にこだわる必要はないようです。2002年の横国ボランティア活動が、今の自分に一番あった仕事なのだと思えばそれで良いのではないのでしょうか。

サッカー協会の岡野会長にお会いした時、「日本のサッカーは2002年W杯が目的ではない」とおっしゃっていました。そうなのです。日本のサッカーが強くなるためには継続することが必要なのです。ボランティア活動が行うものと受けるもの双方に何か得るものがある理想の形になるように、そしてW杯後も横国ボランティアが長く継続されるような活動をしていきたいと考えています。

柏村 孝 (U)

「慣れから気を抜くことなく」

2002年、いよいよW杯の年。ボランティアの皆さんも競技場で、駅周辺で、キャンプ地でのボランティアとしての活動、競技場での観戦応援、更にはテレビを通しての応援と忙しい日々を過ごそうではありませんか。

競技場ボランティアも4年目に入りました。昨年の活動は、マニュアルに沿った活動が大変うまくいったと思います。今年もこのマニュアルをベースに改善しながら活動を進めることを希望しますが、「慣れ」から気を抜くことのないよう、お客様の安全誘導に心がけます。マニュアルは基本的な事柄を決めているが、その運営はボランティア各自の判断によることから、ここに「心」を加え一段レベルアップした活動にしたいと思います。

これは私個人の考えですが、「競技場でのボランティアの活動範囲をもっと広げたら」と思います。まずは現在の活動内容と同じような業務である4F 観客席入り口と7Fの2階席入り口のチケットチェック。その次のステップとして観客席での座席案内などをボランティアでやったらと考えます。これにより、ボランティアの活動回数も増える事になると思います。将来的には三ツ沢球技場でのF・マリノス戦の競技場ボランティアを行うことも考えましょう。

最終戦まで心配したF・マリノスのJ1残留、おめでとうございます。でも、2002年はこんなことのないよう一試合一試合を大切に勝ち星を積み重ねて、優勝戦線に加わるよう心から応援して行きます。

山本 勇 (U)

「今までやってきたことの再確認」

横国ボランティアのみなさん、そして関係者の方々、一年間お疲れ様でした。我らが横浜国際総合競技場をホームスタジアムとして使用している横浜F・マリノスはリーグ戦不振でしたが何とか最終節でJ1残留を決め、今年もボランティアができるようになりました。今年はW杯の年。自分もW杯のボランティアとしての参加が決まっておりますが、それを行うためのステップ段階として、今までやってきたことの再確認を前提に自分自身で見落としている部分を一つ一つ確かめながら活動を行いたいと思います。ただそれが終わった後も、W杯ボランティアをやったという誇りを持って、それで培ったものを発揮していきたいと思います。

鈴木 国悦 (U)



~~~~~  
\*\* 2002年6月30日 世界がこの日を待っている \*\*  
~~~~~

「多くの仲間と一つの輪」

2002年、いよいよW杯の年。ワクワクと心躍る毎日。F・マリノスのJ1残留も決まり、来シーズンの活躍に期待がいっぱい。応援にも力が入ります。横国ボランティアに応募して、ボランティア初心者の初めの2年間は数回の活動日。(ちょっと不満)3年目の機会に思い切ってリーダー研修会に参加。お手伝い気分の中から一つひとつ体験。そしていくつかの失敗。もしかしたら小さな自分でも大きな役割があるかも…。1グループ(事務局)担当になったときは、全体を滞りなく進行できるかハラハラドキドキの1日。終わりに思いがけず、参加者の中から拍手が起きました。ボランティアの皆さん一人ひとりが頑張り、自分自身も頑張る。ボランティア全員のために自分が役立ち、自分のために皆さんが励ましてくれることを体験しました。多くの仲間とひとつの輪につながり、同じ充実感を分かち合えることはとてもやりがいがあります。そしてまた、新たなリーダーが育ち、支え合うボランティアに成長していきたいと思います。

平川 みゆき (U)

「もっと凄い奴らがやって来る」

今年はなんと言ってもアジアで初めてのW杯の年です。そして、その決勝の会場でボランティア活動ができる。凄い事です。と、浮かれてばかりはいられないと思う出来事を、昨年11月開かれたトヨタカップ(ヨーロッパ・サウスアメリカカップ)の会場で目撃しました。私は熱狂的なバイエルンミュンヘンサポーターの集団(一泊三日で来ていたらしい)の脇からの観戦。試合が始まる前から、かなり興奮していたサポーター達でした。そこでちょっとした事件が起きました。彼らの中でタバコを吸う人がかなり目立っていて、競技場の制服を着た警備員が来て、「ノースモーキング」とメガホンで何度も注意を促していましたが、サポーターの一人が英語で、強烈な罵声を浴びせ(その内容は「テメーぶん殴るぞ、あっちに行け」って感じですかね)その警備員はひるんでどこかへ行ってしまいました。あの状況では警備服姿もあまり役に立たないようです。隣に座っていたドイツ人には「あんなので驚いちゃいけないよ、来年はもっと凄い奴らがやって来る」と言われてしまいました。

この様な事が今年のW杯でもおそらく起きるでしょう。もしあの場で、警備員があまり強い態度に出ていた場合、大変な混乱を引き起こしていたかもしれません。私がこの様な状況の中に置かれたらどうしよう? JAWOCでは、どのような対応を考えているのでしょうか? JAWOC研修会で答えが出るのでしょうか。

今年は、これまでの競技場での経験とこの世界最大のイベントをきっかけにして、私自身の進化の年にしたいと思います。

山口 彰悟 (U)

<<< 2001年の活動の反省 >>>

「お客様に満足していただけるように」

開場以来ボランティア活動して3年目、いまだに自信をもって活動ができたと感じておりません。しかし、競技場やボランティアの方々のご協力のおかげで、いつも楽しくボランティアの活動ができております。

コンフェデ杯では、4Fのチケットチェックを行いました。約6万人の来場者での活動をしたことがなかったので、今までの研修が生かされるかと思いましたが、いざとなると思うようには行きませんでした。特に、いつも元気よく声を出して挨拶するように心がけていましたが、自分ではまだまだ満足するまでには行かなかったと感じております。チケットチェックをして挨拶をして、売店等の案内、場内の案内など目が廻る忙しさでしたが、本当に正確にご案内できたかはまだ不安でいっぱいです。でもW杯のときは、どんな担当業務になっても自信を持って正確にご案内できるようにしたいと考えています。

私は、横国ボランティアでいつも心がけていることは、「本当にお客様に満足した時間を過ごしていただけるように」と思い、これからの活動においてもいつも心がけたいと思います。

上田 敏彦 (U)

「記憶に残る3点」

リーダー制の導入 活動マニュアルの制定 コンフェデ杯の経験 の3点が今年の記憶に残ります。今年は、未熟ではありましたがリーダーとしてF・マリノスの試合を殆ど活動する事が出来ました。

シミズ・ニッソーの手を離れ、一般ボランティアの皆様の協力を得ながら無事活動を終了する事が出来ました。「リーダー制を取り入れて良かった」との声が多く聞かれ、リーダーの一人として内心ホッとしました。

活動マニュアルの作成では、村本・宮田の両氏の強力な指導力の下で微力ながらマニュアルの作成の一端に加えて頂き、完璧とはいえないまでも一応の完成を見る事が出来ました。

コンフェデ杯は初めての国際大会でした。東ゲート階段下を24人グループで担当しましたが緊張の連続でした。準決勝戦のあの大雨に濡れながらの活動は、今となっては思い出に残ります。来るW杯では経験した以外の担当で複雑な心境ですが、しかしどこも重要な業務に変わりありません。参加できる喜びと不安を感じながらも「頑張るぞー」と誓うこのごろです。

岸本 章 (U)

「お客様からの拍手とねぎらいの言葉」

試行錯誤で始めた見学案内ボランティア活動も、3年が経過しました。始めたばかりの頃は、見学者の目が自分に向けられていることで、胸がドキドキしたものでした。つたない説明が更にしどろもどろになったりもしました。1回の見学者の数は平均して10人ですが、延べ人数は760人にもものぼるでしょう。

案内が始まって、ゲートをくぐり競技場に入った瞬間の「おー！」という見学者の声にはすっかり慣れてきた今でも、こちらが感動してしまいます。そして、すべての案内が終わったときに皆様から送られる拍手とねぎらいの言葉も、何回聞いても嬉しく、一日の疲れが消えていきます。

案内と説明をするボランティア活動は、一方的な感じを与えるかもしれませんが、実は多くの出会いがありました。今年はW杯があります。そのせいもあると思いますが、最近は外国からの見学者も増えています。私は、せめて出場国の挨拶の言葉、例えば「いらっしやいませ。こんにちは。ありがとうございます。」などの言葉は覚えたいと思っています。声を掛け合うことでお互いの間に親密感が生まれ、更には国同士の友好関係にも繋がっていくと思うからです。どの国においても挨拶の言葉は人と人を結ぶキーワードになるでしょう。その言葉を収集することを今年の最初の活動にしたいと思います。

生田 享久 (T)

2002 FIFAワールドカップ 横浜開催を成功させよう!

運営ボランティアリーダー会議報告

12月16日ボランティアルームにて第3回運営ボランティアリーダー会議が開催されました。運営では昨年度リーダー制度を発足させ運営面の改善を図りながら活動を進めてきました。今回の議題は年間を通しての反省と次年度への課題について話し合われたものです。出席者は競技場から中村課長・村本係長・宮田さん、リーダー28名(総員38名)。冒頭、中村課長は「Jリーグからベストピッチ賞を頂いたが、ベスト競技場賞があれば必ずダブル受賞となったでしょう」と私たちの活動に対して感謝の言葉が述べられました。

村本係長の進行で、活動全般の反省・今年度の活動計画・運営組織体制(案)・運営事務局業務(案)の提案が出されました。課題として特に、4Fゲートにおける活動時間と応援対応の混乱。これは試合開始以降に班別休憩に入る事に統一。ゴミ袋の対処。シミズ・清掃業者・ボラの3者の考えを統一させ、ボラ側は手で持つ方で確認。配置までの時間活用。回廊の施設確認など各班で考慮し、椅子拭きなど自発作業として試みることなどが討議・決定されました。

組織体制案として、今年度リーダー増員(総員数50名)。リーダー役割向上(マニュアル等の文書整理・研修会、交流会の企画運営・リーダー役員制の導入)。リーダー側からの要望として、活動範囲(4Fゲートもぎり、チケットチェック等)の拡大に、工夫し努めて欲しいと出されました。検討の余地があるとのことでした。

ボランティア事務局業務(案)として、ボランティア全員を対象に 通知発送作業。活動欠員補充業務。その他、事務局応援業務要員を募る。この二つの提案事項が確認され、今年度のリーダー増と事務局要員新設をもってリーダーを中心にしたボランティアの自主運営業務が本格的に展開され、確実に組織向上へつながっていくでしょう。また、交通費2000円についても他競技場のボランティアと比較して優遇されており、減額の検討がなされ活発な意見交換となりました。

佐藤 大治 (U)



熱心な意見が交わされる (ボランティアルームにて)

初めての運営ボラ活動

昨年10月17日、F・マリノス対グランパスエイトの試合日に運営ボランティアへ仲間入りさせて頂き、初めて実活動を体験しました。感想を述べさせていただきます。

感心したこと まず運営の皆さんの活動に対する姿勢に感心させられました。積極性・協調性・コミュニケーションの良さ・責任感等レベルの高さに驚き、何がそうさせているのかと思う程熱心な活動振りでした。

疑問に感じたこと 私はDグループ(東ゲート)に配属されて、主にチラシの配布をしました。お客さんはサイズの違う数種類のチラシを数人のボランティアから次々に手渡され、受け取るのに不便ではないかと配布しながら感じました。特に当日は雨で、濡れた傘・入場券・それに荷物を持った人、お子さん連れの人も多く、渡すのが気の毒に思う場面もありました。「チラシをまとめる」とか、「袋に入れる」とかして渡す様にすれば、お客さんは助かるのではと思いました。

またチラシ配布の実態は分かりませんが、F・マリノスを主とした宣伝物が主であり、私の考えていたボランティアの業務の内容からすれば、どうなのかなと個人的に感じました。

貴重な体験をさせて頂き有難うございました。

佐藤 健二 (T)

ホームタウンサミットに参加して感じたこと。それはスポーツ文化そのもののこと。

『文化 ~それは人生の飾り~ なければ楽しくない、あれば人間を豊かにしてくれる』

前号の他スタジアム訪問記で少し触れましたが、昨年9月15・16日に静岡県磐田市で開催されました「第3回全国ホームタウンサミット」に横国ボランティアとして個人参加してきました。この「ホームタウンサミット」は全国のJ1・J2のホームタウンで、ホームタウン創りの活動をしている団体・個人が集まり、活動報告や情報交換をし、今後の活動に結び付けていこうという趣旨のもとで開催されている会議で、今回から“全国ホームタウンボランティア交流会”が加わり、私のような個人も参加することができました。実際、私が参加できるようなものなので、そんなにスゴイものだと思っていなかったのですが、行ってみたら、主催都市の磐田市からはホームタウン推進協議会・磐田市・ジュピロ磐田と揃っているし、同じテーブルにはJリーグの方もいる。私は単なる横国ボラなのに、なんとなく横浜市の代表のような立場になっていてあせりました。横浜市の方もF・マリノスの方もいらっしやらないので心細かった…(この日はF・マリノスのホームゲームが国立競技場で開催されていたので出席できなかったそうです)。そんな中、ちょっと舞い上がりながら興味深いお話を聞いてきました。

『ホームタウン創り』とはいったい何? Jリーグが掲げる百年構想 ~スポーツで、もっと、幸せな国へ~ の第一歩。「スポーツ文化を根付かせるためにはどうしたらよいか」と試行錯誤しながら現在、進められています。そもそも『スポーツ文化』って何? 根付かせることによって、何が生まれるの? 私たちは活動することによって何か得ていませんか? 私たちの活動はきっとスポーツ文化となるものです。私はものすごくたくさんものを得ています。活動することにより自分を試すこともできるし、振り返ることもできる。人脈も広がり、いろんな考えを知ることができ、人間として成長していると実感しています。もちろん、楽しいという気持ちが一番であり、その中心にあるものがスポーツであるということ。これがスポーツ文化がもたらすものではないかと私は思います。また、実際にスポーツをすることにより得られることもたくさんあるでしょう。単なるスポーツが文化となって根付いたら、「豊かな人生をおくる人が増え、地域が元気になる」と実際にホームタウン創りに活動している人たちは思っています。皆さんはどう思いますか?

ホームタウンサミットが終わり、主催のジュピロ磐田ホームタウン推進協議会からお手紙をいただきました。その内容を一部転載します。

「よりローカルに!よりグローバルに!」ローカルティは着実にグローバルティな活動に通じる。

創造的なローカル活動が、もしかしたら文化となるかもしれない。

各地域からの参加者がホームタウンに戻り、今もホームタウン創りに奔放しています。地道な活動だと思えます。横浜では、F・マリノスが“ふれあいサッカープロジェクト”を定期的に関っており好評を得ています。また、プロ野球のベ이스ターズとも連携をとろうという動きもあります。そして、W杯にむけて横浜市もいろいろと動きをみせています。わが横浜もいろんな動きがありますね。もちろん、その中には私たちの活動も必要不可欠!これからも活動を通じ、楽しく豊かな人生をおくり、横浜をもっと元気な街にしちゃいましょう!

宮川 弘恵 (U)

おじゃましまぁ～す!

～他スタジアム訪問記～

『埼玉スタジアム 2002』見学バスツアーてんまつ記

「熱海温泉めぐり」「箱根ゆけむり号」「関東自動車学校行き」...違う違う。別のツアーバスの添乗員に「参加のお客様ですか」と声をかけられ、何度「違います」と答えたことが。集合場所の横浜駅西口天理ビル前についに来ないバスをあきらめ、予定から1時間後にカシマスタジアム組5名と埼玉スタジアム組20名に分かれ、埼玉組は南北線(埼玉高速鉄道乗り入れ)でスタジアム見学へ。横浜駅から東横線で武蔵小杉へ、そこからホームの向かい側の南北線に乗り換え、77分後に終点の浦和美園駅へ到着。南北線は幸い空いていて、車両半分を貸し切り状態でゆったり全員座って行けました。お昼のお弁当を持参しなかったのは唯一私のみ。駅のキヨスクは閉まっているし、スタジアムにレストランは無いし、食べ物は草加せんべい以外全然売ってませんでした。心優しい方々におにぎりやらみかんやら、シウマイやらをいただくことが出来、お腹も満たせました。試合の無い日に埼玉に行く時は必ずお弁当を持参していかなければならないということを痛感しました。13時からの見学ツアーには私たちも含め約40人が参加し、ナビゲーターはサッカーのユニホームをまとったかわいい女性でした。40人にマイク無しで説明するのはちょっと大変そうでした。約10分おきに40人の団体が見学ツアーに参加していて、かなりの盛況振りでした。スタジアム座席最前列の席にも札幌ドームと同じく、前の壁にドリンクホルダーがセットされていたので、横浜にも真似してもらいたいと思いました。VIPシートはクッションがついて座り心地が良かったです。見学ツアーの入り口がメインスタンド側にあることで、見学の為に歩く移動距離はかなり短く納まってました。トラックのないサッカー専用スタジアムなので、ピッチが本当に座席のすぐ目の前という感じでした。説明はあっさりと終わり、私たちはスタジアムの外周で、軽くスポーツゲームを楽しみ、お手製のケーキを味わい、貸し切りに近い南北線で優雅に家路に着きました。

バス会社の手配ミスだったということで、3月までに再度スタジアム見学が企画されるようです。楽しみにしています。

玉村 マキ (T)



千羽鶴の勝利

10月17日、約二週間で集まった1500羽のトリコロールの折鶴をラザロニ監督に贈呈。当日は見事勝利を収めました。この日の勝利はこの上なくうれしかった!横国ボランティアがF・マリノスと一体化したように感じたのは私だけ...?

ともかく今年もJ1の舞台上で活動できます。ありがとうF・マリノス!そして今年は開幕ダッシュでW杯前の横浜を盛り上げてくださーい!

宮川 弘恵 (U)

紙上見学ツアー

いよいよ冬将軍の到来。昨秋からグランドコートを着てツアーガイドをすることになったので、一昨年よりは少し楽になったかなと思いますが、やはり冬ですからつらいものがあります。晴れている日でも3時頃からだんだん日が傾きはじめ、西側に位置するメインスタンドは既にひんやりとしています。冬期の最終で4時頃になると、バックスタンドにも競技場自慢の全周2層式のスタンドを覆う屋根が災いしてか、その影が残り少ない日向を駆逐していきます。

コースを一回りしてバックスタンドに戻ってくるときには、既に夕闇が迫っています。そして、それに追い討ちをかけるように、灰色のコンクリートと寒色系のブルーとグレーを基調にしたシートが並ぶスタンドは、一層の寒さを感じさせます。剥き出しのコンクリートは、見た目だけでなく靴底を通り抜けて冷たさを伝えてきます。冷たい風も競技場の形状のせいか、いろいろな方向から吹いてきたりして...

そんな寒々しいスタンドと比べると、夏と変わらない緑色を一年中保っているピッチ。『芝生の下には温水パイプが通っています』...なんてありましたっけ。なんと羨ましいこと!

② いんふおーめーしょん

横浜国際総合競技場事務局だより

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。
さて、今回は昨年完成しましたボランティアルームの利用方法を簡単にお知らせいたします。
お互いに安全に気持ちよく利用していただくために、ご協力をお願いします。

利用時間

- ・ 競技場ボランティア及び競技場が認めた方が利用できます。
- ・ 来場したら管理事務所の管理課渉外担当から、「鍵」と「貸出簿」を受け取りルームに入室してください。
- ・ 利用は無料です。また、事務用品は競技場で準備します。
- ・ ルーム内は全面禁煙です。
- ・ 競技場の許可のない場合は、飲酒はできません。

利用方法 原則として午前 10 時から午後 5 時までとします。
(事前に電話予約が必要。火曜日は休場日。)



1月・2月・3月のスタジアム見学ツアー

1月 19日 20日 23日 26日 27日 30日
2月 2日 3日 6日 9日 10日 13日 16日 17日 20日 23日 24日 27日
3月 6日 9日 13日 16日 20日 21日 23日 27日 28日 29日 31日
開催時間 11時・13時・14時・15時 (1日4回 1回の予定所要時間約40分)

(ニックネーム募集)

ボランティアルームに名前を付けませんか。親しみ易い名前があったら良いなあと思います。
連絡は、競技場管理課(宮田さん)、または、U-11295 緒方まで
(メール：ufo-gat@mrh.biglobe.ne.jp または、電話・FAX：045-716-4820)

「初心者向けのメール教室(仮)」

2月3日(日)10:00 から、ボランティアルームを使って「初心者向けのメール教室(仮)」を考えています。
パソコン(メールソフト)の設定方法、メールソフトの使い方等を知りたい人は、U-11295 緒方まで連絡ください。
メールソフトは、Outlook Express, Becky を予定しています。ノートパソコンを持ってる人は持ち込み可能です。

ボランチわ メールリング リストへ登録しよう !!

vfe02110@nifty.ne.jp (管理人：前田 哲哉)へ「メールリングリストへ登録してください」とメールしてください。その時、「名前」、「ID 番号」と「登録したいメールアドレス」も一緒に連絡しましょう。現在の登録者数は、約 30 名です。

ボランチわサッカー部だより! 11月11日、我がサッカー部は「kick-together」というW杯200日前イベントに参加し、競技場東側自由広場でフットサルを行いました。試合形式は部員を3チームに分けての総当たり戦でしたが、各試合とも白熱し僅差で勝敗が決まり、またピッチを走り回る選手たちはボランティア活動時とは全く違う一面を見せてくれました。2日後、朝日新聞全国版にも「ボランチわ」としっかり載っていました。

まだできたばかりの部です。上手下手は問わないので、ボランティア仲間との顔合わせや日ごろのうっぶん晴らしを兼ねて、皆さん是非とも参加してください。

編集後記

“行く・逃げる・去る”と昔の人は1～3月の月日の早さをこう言っていました。早や1月のカレンダーももう直ぐ終わります。6月はあっという間に来るでしょう。「W杯本番は苦しいもの。喜びと楽しみを味わえるのは今である」と安田さんはボランティア人としての活動の在り方を力説しています。そうです。夢のW杯へ、今一諸に楽しみましょう。(第7号編集担当 佐藤)

編集・発行 / 〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 横浜国際総合競技場内
ボランティア会報誌『ボランチわ』編集部 Tel:045(477)5006 Fax:045(477)5002